

第1回岐阜県リニア中央新幹線活用戦略ブラッシュアップ懇談会 議事要旨

1. 日時：令和3年10月12日（火） 16：30～17：30
2. 場所：岐阜県庁4階 特別会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
涌井座長、青山委員、内田委員、加藤委員、上手委員、真田委員、
田中委員、村瀬委員、森川委員
 - (2) 県
知事、都市公園整備局長、都市公園整備局副局長、リニア推進室長、
商工労働部次長、林政部次長、地域振興課長、観光企画課長
4. 議題
 - (1) 座長の選出について
 - (2) 岐阜県リニア中央新幹線活用戦略ブラッシュアップについて
5. 議事要旨

〈観光振興・まちづくり戦略〉

- ・子育て世代の移住定住を進めるには、地方ならではの、魅力ある教育環境の充実が必要。
- ・都市計画区域のほか、都市計画区域外でもリニア開業をきっかけとした乱開発が行われないよう、具体的な規制や保全手法の検討が必要。
- ・リニア開業後、長野県駅から松本、高山、富山への新たな人の流れに対抗すべく、岐阜県駅から下呂、郡上、高山間の流れを作ることが必要。
- ・リニア開業による滞在時間増加に対応した、滞在に値する2箇所以上のコンテンツの充実が必要。
- ・観光客が使ったお金を地域内に循環させ、農業をはじめとした各種産業への経済波及効果をもたらす仕組みづくりが必要。
- ・ヨーロッパの農業施策のように、環境保全を付加価値と捉える農産物のブ

ランド化が必要。

- ・森林や農山村の風景など、一見無価値に見えるものを、いかに価値化させていくかで、地域のイメージが大きく変化。

〈産業振興戦略〉

- ・中津川は、自然と森林に恵まれており、企業のクリエイティビティに配慮した、ソフィア・アンティポリスのような地域に変貌する可能性。
- ・イノベーションの先のクリエーションをどう実現し、クリエイティビティとリニアをいかに組み合わせるか、考えることが必要。
- ・豊かな自然と伝統的な街並みの中に、スタートアップ企業の拠点ができるとう良い。
- ・県外から見た「住みたい岐阜県」にしていくには、どうしたらいいかという視点が必要。
- ・県内産学が連携し、地元出身の優秀な人材を育成、自治体主導で企業とのマッチングすることが、ベンチャー企業などの誘致につながる。
- ・デジタル化の加速を見据え、首都圏に集中しているIT人材の中で、岐阜県出身者などで、地元で貢献したいと思っている人を呼び込む施策が必要。
- ・現行のリニア活用戦略に記載されている、行政中枢機能のバックアップ施設誘致については、やや時代遅れではないか。

〈基盤整備戦略〉

- ・例えば、栗林などに囲まれた駅前に、最新の交通システムが整備されているような、世界にひとつしかない岐阜県ならではの駅になってほしい。
- ・岐阜県駅が、交通の要衝、玄関口になるには、濃飛横断自動車道の早期完成と国道41号線の強化が肝となる。
- ・リニアはスピードが重要で、リニアで素早く来て、バスで目的地まで移動して、リニアで素早く帰られるバスネットワークの構築が重要。
- ・インバウンド需要回復を見据え、国内で車を運転できない方を対象に、ライドシェア等も検討しつつ、いかに二次交通を充実させるかが重要。